

日本国際連合学会第 27 回（2026 年度）研究大会プログラム
共通テーマ：日本の国連加盟 70 年：国連をめぐる現状と将来への展望

2026 年、日本は国連加盟 70 周年を迎える。1956 年の加盟以来、日本は国連を通じて国際社会とどのような関係を築いてきたのか。日本が国連の場で果たしてきた役割や、国際協力の枠組みの中での日本の位置づけを改めて問い直すことは、今後の国際秩序を考える上で重要な意味を持つ。

しかし、今日の国際社会は国連創設時に国連憲章に盛り込まれた基本的な理念や原則に真っ向から挑戦する加盟国の動きや、創設時には想定されていなかった多くの深刻な課題に直面している。国連外交の基盤である多国間主義は、世界の分断の進行により危機的状況にあり、それは国連の信頼性と有効性を揺るがしている。また、従来の国連研究では十分に扱われてこなかった先端科学技術に関する論点が、いまや AI やデジタル、宇宙、気候変動対策、バイオなどの分野で急速に重要性を増している。これらは国際規範やルールの形成や国際連携が求められる新しい課題であり、国連という存在がどのような役割を担えるのかが問われている領域でもある。国連をめぐる議論は、加盟国や国連機関自体の役割のみで分析できるものではなく、企業・市民社会など多様なアクターについても検討する必要もある。

こうした現状において、国連研究はどのような知見を提供できるのか。そして今後の国連研究は何を検討すべきなのか。日本の国連加盟 70 周年は、過去を振り返るだけでなく、今日の国連や国連研究の抱える課題を再考し、未来の国際協力のあり方を構想する契機となる。

そこで 2026 年度の研究大会では、日本と国連の 70 年間の歴史を検証し、日本と国連の現在と未来について議論する。さらに、先端科学技術が平和と安全保障、持続可能な開発、人権という国連の主要な政策分野のなかで及ぼす影響など従来の国連研究が必ずしも重点的に扱ってこなかったテーマについても検討する。今日の国連の役割の分析を通して、今後のビジョンを描く場としたい。

【日時】

2026 年 6 月 13 日（土）13:30～17:20（12 時 45 分開場）

14 日（日）10:00～16:00（9 時 30 分開場）

【会場】

筑波大学筑波キャンパス大学会館 国際会議室

（〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1 丁目 1-1）

【方式】 対面

<第1日：2026年6月13日（土）>

1. 10:00～12:00 理事会

2. 12:45～ 開場

3. 13:30～13:35 開会挨拶

星野俊也（日本国際連合学会理事長、国際連合システム合同監査団／大阪大学）

4. 13:35～14:30 基調講演

基調講演者 長谷川祐弘（日本国際平和構築協会）

「国連加盟70周年：国連での日本、過去と現在、そして将来」

コメント 星野俊也（国際連合システム合同監査団／大阪大学）

会場との質疑応答

5. 14:30～14:40 休憩

6. 14:40～17:20 パネルディスカッション 「国連と日本の現在と未来」

日本は1956年の国連加盟以来、平和国家としての立場を基盤に、開発協力、人権保障、平和協力活動など多様な分野で国連と関わってきた。しかし今日では、世界の分断の進行、気候変動や先端科学技術の急速な発展は、国際秩序と多国間主義の基盤を揺るがしている。

本パネルでは、日本と国連の70年の関係を踏まえつつ、国連の現状と将来の展望を議論する。国連の理念はどのように実際の政策や活動に反映されているのか、日本は国連を通じてどのような役割を果たしているのか。そして、今後国連はどのような役割を果たしうるのか。日本と国連の視点から、今後の国際社会のあり方を検討する。

司会：星野俊也（国際連合システム合同監査団／大阪大学）

パネリスト：潘亮（筑波大学）

パネリスト：望月康恵（関西学院大学）

パネリスト：中村長史（共立女子大学）

パネリスト：長谷川祐弘（日本国際平和構築協会）

7. 17:25～17:55 総会

8. 18:00～20:00 懇親会 会場：大学会館レストランプラザ 筑波デミ 会費：5000 円

<第2日：2026年6月14日（日）>

1. 9:30～ 開場

2. 10:00～12:30 研究報告セッション「国連と科学技術」

今日の国際社会では、急速な科学技術の進展が見られ、新たな地球規模のリスクとなっている。AI やデジタル技術やバイオに関わるガバナンスの検討が不可欠である。急速な科学技術の進展が平和と安全保障、持続可能な開発、人権という国連の主要な政策分野にどのような変容をもたらしたのか。国連はこうした新しい領域にどのように対応しているのか、その制度や機能は十分に適応できているのか、また、国連研究はどのような知見を提供できるのかという問いが突きつけられている。

本セッションでは、急速な科学技術の進展が国連の主要な政策分野に与えた影響を検討する。

司会・討論：二村まどか（法政大学）

報告：田中極子（東洋英和女学院大学）「バイオテクノロジーのガバナンス」

報告：藤巻裕之（東海大学）「旧ソ連地域をめぐるサイバーセキュリティと国連」（仮）

報告：杉村美紀（上智大学）「Science Diplomacy とユネスコ」（仮）

3. 12:30～14:00 昼食

4. 14:00～16:00 若手独立報告セッション

司会：志村真弓（立命館大学）

報告：竹内海人（神戸大学大学院・国際協力機構）「仲介者を通じた人道ガバナンス——タイのミャンマー避難民支援における自立（self-reliance）支援への移行を事例に」

報告：石丸オリエ（一般社団法人ザ・グローブ代表理事）

「戦争からの復興、社会復帰のためのリハビリテーション——ウクライナ復興支援からのケース・スタディ」

討論：真嶋麻子（日本大学）

*研究大会及び懇親会の出欠については、Google フォームの URL または QR コードから、2026年6月2日（火）までにご回答ください。締め切り以降も出欠を受け付けますので、締め切り後に出欠が確定した方も確定次第ご回答ください。会員以外の方にも傍聴いただけます。事前申し込みの必要はありませんので、当日受付で傍聴料 500 円（2 日間通し）をお支払ください。<https://forms.gle/Z7WA6WXNqp5mTzji6>



*筑波大学は eduroam に参加しておりますので、eduroam に参加している機関の構成員であれば、ご自身の eduroam id と password で筑波大学の学内 LAN システムからインターネットへアクセスが可能です。

*研究大会（理事会・総会・懇親会を含む）の出席に伴う託児費用の助成については、メンバーリストでご案内します。